

資料 1

岩手公園について

1 あらまし

盛岡城は、三戸から不来方(こずかた)の地に居城の移転を決定した南部信直(なんぶのぶなお：盛岡藩初代藩主)が、慶長 2 年(1597 年)に嫡子利直(としなお：2 代藩主)を総奉行(そうぶぎょう)として築城を始めたと伝えられ、翌慶長 3 年(1598 年)の正式許可の後、築城工事が本格的に進められました。

築城工事は、北上川や中津川の洪水にみまわれながらも続けられ、築城開始から 36 年後の寛永 10 年(1633 年)に南部重直(しげなお)＝(代藩主)が入城して以降、藩政時代を通じて盛岡南部氏の居城となりました。

盛岡城は、明治の廃藩置県の後明治 5 年(1872 年)に陸軍省所管となり、明治 7 年(1874 年)には内曲輪(御城内)の建物の大半が取り壊され、城内は荒廃しました。

その後、明治 39 年(1906 年)に近代公園の先駆者である長岡安平(ながおかやすへい)の設計により岩手公園として整備され、市民の憩いの場として親しまれています。

平成 18 年(2006 年)には開園 100 周年を記念し、「盛岡城跡公園」と愛称をつけました。

2 施設の目的

この公園は、国指定史跡盛岡城跡を活用した本市を代表する公園である。

市民との協働により、史跡公園としての品格を保ちながら、多くの市民や観光客が訪れ楽しめる公園とする。

3 施設の概要

(1) 開設面積：(9.2ha)

(2) 主な公園施設：便所(4箇所)、四阿、噴水(1)、その他遊具及びベンチ等

(3) 指定管理者の管理以外の施設：もりおか歴史文化館、彦御蔵、岩手公園地下駐車場

(4) 園内樹木

- ・樹種：赤松、黒松、梅、紫陽花、紅葉、カエデ、ケヤキ、桜、ツツジ、ヒマラヤスギ、トチノキ

代表的な樹種はケヤキ、トチノキ。盛岡固有の樹種、地方色の濃いものなど珍しい樹種としては、シダレカツラ、ケンボナシ、ユズリハ、キハダ、クマノミズキなどがある。

- ・本数：約 4,000 本

(5) 盛岡城の石垣

盛岡城の石垣は、全て城内とその周辺で産出した花崗岩によって築かれています。石垣は構築された時期などによって異なった積み方が見られ、自然石をそのまま積み上げる「野面積み」、割石を積み上げる「乱積み」、方形に整えた石を積み上げる「布積み」が見られます。石垣総面積約 1 万 6 千平方メートルのうち、傷んでいる約 5000 平方メートルを解体・復元する作業を昭和 59 年(1984 年)から行っており、現在も継続的に事業が進められています。

(6) 鶴ヶ池・亀ヶ池

盛岡城の内堀跡で中津川から水を引いています。桜山の鳥居を挟んで、西側が「亀ヶ池」、東側が「鶴ヶ池」と名付けられています。

(7) 多目的広場

(8) ビクトリアロード

ユリノキの大木の並木と美しい中津川のせせらぎに包まれた小道。

(9) 時鐘（日陰門外時鐘）

この時鐘は、4代藩主南部重信の時代に、その子行信の発願によって、延宝7年(1679年)に京都から釜師として迎えられた小泉五郎七清則の手によって鑄造されたものです。昭和30年(1955年)ごろまで約280年に渡って盛岡の人々に時刻を知らせ、生活の調べとして親しまれてきました。

昭和42年(1967年)6月24日に市の指定文化財になっています。

(10) 芝生広場

中津川よりに位置する芝生広場は、ヤマボウシやハマナスなどのさまざまな花の咲く樹に包まれた開放的な空間で、家族で憩える空間です。

宮沢賢治詩碑や、姉妹都市であるビクトリア市から贈られたトーテムポールがあります。

(11) 花壇

もりおか歴史文化館前の花壇。百種類を超える草花が一年を通して咲き誇ります。

毎日の維持管理がボランティアクラブの手により行われています。

(12) 彦御蔵（ひこおくら）

江戸時代末期に建てられたといわれている土蔵で、城内に残る唯一の藩政時代の建築物で、諸道具を納めていたと考えられています。

建物は木造総二階建ての土蔵造りで、内部は中央で二つに仕切られています。城跡に残る唯一の蔵（寛延2年(1749年)竣工）。内部を上下四つに仕切っています。

外壁は漆喰塗り仕上げ、屋根は野地板の上に土を塗り、その上に木造屋根組を行う二重構造で瓦葺です。出入口は両開きの漆喰戸で、その内側に片引板戸が2枚ついており、外側の板戸外面は漆喰塗り仕上げとなっています。建築面積は180.25平方メートル（54.5坪）。

(13) 文学碑

- ・石川啄木歌碑、新渡戸稲造文学碑、宮野小提灯句碑
- ・宮沢賢治詩碑：「岩手公園」

賢治の死期迫る1カ月前の昭和8年(1933年)8月22日の日付のある文語詩百編の中の一詩で、「賢治の詩碑を岩手公園に建てる会」により、昭和45年(1970年)9月に建立されました。

(14) 彫刻・モニュメント

- ・南部（利祥）中尉騎馬像台座

南部42代利祥(としなが)が24歳で日露戦争において戦死し、その功によって、功五級金勲章を受けたことを顕彰する像で、明治41年(1908年)9月に建立されましたが、銅像本体は昭和19年(1944年)に軍需資材として供出され、現在は台座のみが残されています。

- ・教育の像

笛を吹く生徒と、それを暖かく見守る女性教師の像は、学制発布百年を記念して岩手県小・中学校校長会が合同で、昭和49年(1974年)3月に建立したもの。岩手の教育を象徴し、教育の重要性を広く訴える像です。小野寺玉峰作。

- ・トーテムポール

カナダ・ブリティッシュ・コロンビア州ビクトリア市と盛岡市の姉妹都市10周年を記念して、平成7年(1995年)5月にビクトリア市より寄贈されたものです。一番上のイーグル(鷲)は力・地位・富を象徴する地位の高い紋章。

- ・花時計

東北銀行20周年記念事業の一貫として昭和45年(1970年)11月に整備されました。花時計は、春にはパンジー、夏にはインパチェンスやベコニア、秋には菊、冬には葉牡丹と年4・5回植え替えられ、四季を通じて市民の目を楽しませています。

- ・瀬川正三郎像

大正6年(1917年)、京都武専を出たばかりの瀬川氏は、柔道師として盛岡中学に迎えられ、その若さと情熱、豪快な気質は生徒たちに大きな影響を与えました。盛岡中学をやめた後も、県のスポーツ振興につくしました。昭和50年(1975年)11月建立。舟越保武作。

- ・世界アルペンメモリアルモニュメント

平成5年(1993年)に雫石で行われた世界アルペン選手権大会盛岡雫石大会開催を記念して、同大会の表彰会場となった岩手公園（盛岡城跡公園）にモニュメントを設けました。

このモニュメントにはメダリスト達の手形がはめ込まれています。

- ・教育記念像

昭和17年(1942年)に下閉伊郡荒川国民学校で水泳中、おぼれかかった教え子を救助しようとして殉職した小国テル子訓導の鎮魂の碑文がはめ込まれています。昭和30年(1955年)12月建立。堀江赳作。

(15) イベントガイド

- ・盛岡さくらまつり

毎年4月に開催。約250本あまりの桜が咲きます。

- ・いしがきミュージックフェスティバル

盛岡城跡公園をはじめ、盛岡市中心市街地で開催される音楽イベントです。

- ・もりおかイルミネーションブライト

盛岡城跡公園をはじめ、盛岡市内各商店街でイルミネーションを点灯します。